

世界遺産登録20周年記念フォーラム

姫路城と法隆寺

—歴史に学ぶ、未来を語る—

2013年12月1日(日)
午後1時30分開演

姫路市市民会館・大ホール
(兵庫県姫路市総社本町112)

【あいさつ】

このたびは「世界遺産登録20周年記念フォーラム 姫路城と法隆寺」にご参加いただき、心より感謝申し上げます。

日本の城郭様式を代表する姫路城と、世界最古の木造建築を多数残す法隆寺は、1993年12月に日本で初めて世界文化遺産に登録されました。いずれも、日本が世界に誇る「木の文化」の象徴であり、同じ技術で建城・建造され、同じ方法で修理、修復が行われてきたという共通点もあります。

世界遺産に登録されることは、かけがえのない価値を持つ人類の宝物として保護・保全し、次の世代へ受け継ぐ責任を担うことでもあります。世界遺産のある国や地域の人々がともに遺産を守ろうとすることが人々の心の支えとなり、ひいては戦争や紛争を遠ざけるという平和的活用も期待されています。我が国における世界文化遺産はこの20年間で13件にまで増え、さらに登録に向けての活動が活発に行われていますが、こうした関心の高まりは最初に登録された姫路と斑鳩の各地域の方によるさまざまな活動や支援の成果ともいえます。そして、今後も姫路城と法隆寺は、日本における世界遺産の先駆けとして、登録遺産の進むべき道筋を示す役割を期待されることでしょう。

しかしながら、この二つの文化遺産は、木造建築であるがゆえに雨や風の被害を受けやすく、保存のためには細やかな補修が欠かせないという問題も抱えています。本日は、保存のうえでの課題にも目を向けつつ、貴重な文化遺産を未来に引き継ぎ、長く守り続けるために今、私たちは何をすべきなのかを一緒に考える機会になれば幸いです。

最後になりましたが、本フォーラムにご協賛・ご協力賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。

姫路市 法隆寺 読売新聞社

【主催】姫路市、法隆寺、読売新聞社

【後援】歴史街道推進協議会、「世界文化遺産」地域連携会議
【協賛】鹿島建設、ヒーバンジヨア